

多言語多文化研究に向けた複合型派遣プログラム
派遣先機関等利用マニュアル

2011 年 10 月 27 日

派遣者氏名（専門分野）	富永悠介（文化形態論 日本学）
-------------	-----------------

派遣期間	2011 年 8 月 22 日 ～ 2011 年 9 月 5 日
------	----------------------------------

派遣研究機関

国	都市	訪問機関
台湾	台北	中央研究院近代史研究所檔案館

利用マニュアル（利用申請に必要な書類、手続き、リサーチ方法等を記入）

中央研究院は中華民国政府直属の研究機関であり、数理科学、生命科学、人文社会科学の分野における研究所や図書館が併設されている。今回訪問した近現代史研究所檔案館もそのうちの一つである。近現代史檔案館には、中華民国政府の経済・外交部関係の史料などが保管されているが、ここでも「数理化」（データファイル化）がかなり進んでいる印象を受けた。



中央研究院

住所：台北市南港区研究院路 2 段 128 号（[近代史研究所檔案館](#)は中央研究院の敷地内に位置する）。

開館時間：月曜日から金曜日、8：30～17：30

利用方法：台北捷運（MRT）を利用するなら「南港站」か「世貿展覽館站」からバスに乗り換えるのが便利である。中央研究院行きの本数が多いので[こちら](#)を参照されたい。

檔案館ではまず「調閱檔案申請單」に必要事項を記入する（左下写真）。そして、パソコンを使って史料を検索することができ、閲覧及びプリントアウトが可能である（一枚 2 元）。但し、史料の二分の一以下の枚数しか印刷することは出来ない。

檔案館に限られたことではないが、台湾では史料を「数理化」して公開している機関が多くなってきた印象を受ける。

これによって史料調査は格段としやすくなった。だが、こちらが入力したキーワードでは拾いきれない情報が史料に書かれている可能性は大きい。また、目録作成者側がどんな言葉をキーワードとして設定しているのかも重要な問題だ。なぜなら、キーワード検索でヒットしない史料を見落としている可能性も多いにありえるからだ。だとすれば、やはり現物を手にとって自分の目で確認することも研究を進める上で重要だと言える。いろいろなアーカイブスを自分のニーズにあわせて上手にどれだけ使えるかが調査を進めるうえでのポイントになりそうだ。

申請時間	2011 年 8 月 26 日	介紹人			
姓 名	富永悠介	國 籍	日本	性別	男 ☒ 女 ☐
學 校 或 服務機關	大阪大学	現 職	学生		
聯絡地址					